

大磯建物語⑥

旧吉田茂邸

神奈川県立大磯城山公園
(旧吉田茂邸地区)



発行
大磯まちづくり会議

ワンマン宰相 吉田茂の生涯 ①



③

名前：吉田茂（よしだしげる）
出身地：東京神田区駿河台
生没年：1878.9 - 1967.10 享年90（満89歳）

内閣総理大臣就任歴（在任期間／年齢／日数）
45代（第1次）1946.05 - 1947.05 67歳 368日
48代（第2次）1948.10 - 1949.02 70歳 125日
49代（第3次）1949.02 - 1952.10 70歳 1353日
50代（第4次）1952.10 - 1953.05 74歳 201日
51代（第5次）1953.05 - 1954.12 74歳 569日
通算在任日数：2,616日

太平洋戦争で敗戦国となった日本は、政治・経済とも混乱し疲弊していました。GHQ占領下で様々な課題を押し付けられますが、それらに毅然と立ち向かい日本を独立・復興へと導いた人物。それが「ワンマン宰相」と呼ばれた首相「吉田茂」です。

大磯に邸宅を構えた歴代の総理大臣は初代伊藤博文ら8人で、8番目が吉田茂です。

幼少期より大磯に親しみ、戦後から晩年亡くなるまでを大磯で過ごした吉田茂の生涯について紹介します。

生い立ち

吉田茂は、1878年（明治11）高知県幡多郡宿毛町出身の土佐藩士・竹内綱（たけのうちのつな）の七男七女の五男として、東京神田区駿河台（現・東京都千代田区）で生まれました。

父・竹内綱は西南戦争で西郷隆盛の手助けをしたとして、反政府活動を理由に長崎で逮捕・投獄されたため、実母は竹内の大親友であり、元福井藩士で海運貿易商として活躍していた吉田健三（よしだけんぞう）を頼り、健三の庇護の元で茂を生みました。

そして、健三には子供がなかったことから、1881年（明治14）茂が3歳のとき、吉田家の養子となります。しかし、養父・健三が40歳の若さで死去したため、当時11歳だった茂が莫大な財産と共に吉田家を継ぎます。

受け継いだ遺産の額は50万円です。現在の価値にすると数十億円にもなります。しかし、この莫大な遺産も貴族趣味や一流主義の傾向があり、金銭には無頓着な性格の吉田は、後に政界入りするまでに花柳界などでそのほとんどを使い果たしたと云われています。

学生時代

少年期は、教育熱心な養母・士子（ことこ）に厳しく育てられ、戸太町立太田学校（後の横浜市立太田小学校）を卒業。

1889年（明治22）に藤沢にあった耕余義塾（こうよぎじゅく）に入学し、1894年（明治27）に卒業すると幾つかの学校を転々としています。

学習院大学科に通うころに外交官を目指す意思が固まり、東京帝国大学法科大学（現・東京大学法学部）に編入し、1906年（明治39）政治科を卒業。同年外交官および領事官試験に合格し、外務省に入省します。

外交官時代

吉田は、約20年間中国の奉天や天津のほか、イタリア、イギリスなどで外交官としてのキャリアを積んでいきますが、その大半は中国での勤務でした。外交官としての出世コースは欧米勤務で、中国勤務は言わば裏街道であったとエリート意識の強い吉田は語っています。

1909年（明治42）に枢密顧問官の牧野伸顕（大久保利通の次男）の長女・雪子と結婚しますが、結婚式の当日、痔を患っていたため、新郎は欠席。代わりに新郎の席には家宝の太刀を座らせたと云われています。

1928年（昭和3）には、田中義一および浜口雄幸両内閣の外務次官を務め、その後は駐イタリア大使、駐イギリス大使を歴任しています。

やがて時局は戦時体制となり、1941年（昭和16）太平洋戦争開戦となります。戦時中、吉田は戦争の早期終結を目指し和平工作活動に奔走しますが、1945年（昭和20）4月この和平工作活動を理由に軍部に逮捕され拘留されてしまいます。そして、同年8月に日本は敗戦し、太平洋戦争は終結しました。



②

駐英国大使時代（昭和10年代前半）

吉田茂・略年譜（1878～1945年）

- 1878年（明治11）・旧土佐藩士で自由党志士の竹内綱の五男として東京に生まれる
- 1881年（明治14）・横浜の貿易商吉田健三の養子となる
- 1889年（明治22）・藤沢の耕余義塾に入学（5年間に在籍）
・養父健三死去し、吉田家当主となる
- 1894年（明治27）（日清戦争勃発）
- 1904年（明治37）（日露戦争開戦）
- 1906年（明治39）・東京帝国大学法科大学政治科卒業
・外交官および領事試験に合格
・外務省に入省し、領事官補となる
- 1907年（明治40）・奉天（中国）在勤
- 1908年（明治41）・ロンドン在勤
- 1909年（明治42）・牧野伸顕（大久保利通 次男）の長女雪子と結婚
・大使館三等書記官としてイタリア在勤
- 1912年（明治45）（明治天皇が崩御し大正天皇が即位）
・安東領事を命じられる
- 1914年（大正3）（第1次世界大戦勃発）
- 1918年（大正7）・済南領事を命じられる
・パリ講和会議へ牧野伸顕全権大使に随行
- 1920年（大正9）・大使館一等書記官としてイギリス在勤
- 1922年（大正11）・天津総領事を命じられる
- 1923年（大正12）（関東大震災）
- 1925年（大正14）・奉天総領事を命じられる
- 1926年（大正15）（大正天皇が崩御し昭和天皇が即位）
- 1928年（昭和3）・外務次官に任ぜられる
- 1930年（昭和5）・駐イタリア大使を命じられる
- 1936年（昭和11）・駐イギリス大使を命じられる
- 1941年（昭和16）・妻雪子死去（太平洋戦争開戦）
- 1945年（昭和20）・憲兵隊に拘置される（太平洋戦争終結・敗戦）
・外相に就任

▶次ページに続く

ワンマン宰相 吉田茂の生涯 ②

吉田内閣

敗戦により日本は、サンフランシスコ講和条約の発効される1952年(昭和27)4月までGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)占領下に置かれることとなります。そして、GHQの最高司令官として就任した最初の人物こそがダグラス・マッカーサーでした。

戦後の東久瀨宮内閣(ひがしくにのみやないかく)と次の幣原内閣(しではらないかく)で外相を務めていた吉田は、マッカーサー率いるGHQからの難題へ交渉役として憲法改正や経済復興などの戦後処理に奔走します。

1946年(昭和21)4月の総選挙で衆議院第1党の日本自由党総裁・鳩山一郎が公職追放となったため、その後任として吉田が総裁を受諾し、第1次吉田内閣が誕生します。

吉田内閣は、合計で5度成立し、通算在任期間は2,616日(7年2カ月余り)の長期政権となり、戦後の復興へ尽力しました。

第1次吉田内閣では、日本国憲法を1946年(昭和21)11月3日に公布、翌年5月3日に発効しました。

日本国憲法の草案は、元々GHQの命令で日本政府が大日本帝国憲法をベースに改正したもので天皇主権などが維持された内容であったため、GHQに却下されてしまいます。

1946年(昭和21)2月にGHQが作成し日本政府に提示した草案では、「基本的人権の尊重」、「主権在民」、「戦争放棄」が基本原則となり、天皇は「象徴」とされた内容でした。

日本政府も再三にわたり交渉を続けましたが、大筋で合意しました。後にこのことを吉田は本の中で「事実、次に述べる憲法改正要綱の発表は、政府として十分納得し満足すべきものとしてなされたわけではなかった。端的に

いって、憲法改正の要請に応じた方が、対局上有利なりと、わが政府において判断したのである。当時の連合国との関係において、わが国として当面の急務は、講和条約を締結し、独立、主権を回復することであり、これがためには、一日も早く民主国家、平和国家たるの美を内外に表明し、その信頼を獲得する必要があるのである。」と述べています。

1951年(昭和26)サンフランシスコ講和条約(ソ連など一部の国は不参加)、日米安保条約に調印。翌年4月28日に講和条約が発効されたことでGHQの占領統治時代は終わりを告げ、日本はポツダム宣言受諾から約7年で主権回復と国際社会への復帰を果たしました。



②
サンフランシスコ講和条約調印
1951年(昭和26)9月8日

1954年(昭和29)第5次内閣は総辞職。吉田の長期政権は終わりを告げ、1963年(昭和38)には戦後の日本の進むべき道筋をつくらせてきた吉田は政界を引退しました。

引退後も、大磯の自宅には多くの政財界の要人などが訪れ、「大磯詣(おおいそもうで)」という言葉も生まれるほどでした。

そして、1967年(昭和42)10月20日満89歳(享年90)で死去しました。日本武道館で戦後初の国葬が執り行われ、地元大磯では町民が沿道で葬列を見送りました。

■吉田茂・略年譜 (1945~1967年)

- 1945年(昭和20) (太平洋戦争終結・敗戦)
 - ・外相に就任
- 1946年(昭和21)・第1次吉田内閣成立
 - ・日本国憲法公布(翌年5月施行)
- 1948年(昭和23)・第2次吉田内閣成立
- 1949年(昭和24)・第3次吉田内閣成立
- 1950年(昭和25) (朝鮮戦争勃発)
- 1951年(昭和26)・サンフランシスコ講和条約に調印
 - ・日米安全保障条約に調印
- 1952年(昭和27)・第4次吉田内閣成立
- 1953年(昭和28)・第5次吉田内閣成立
- 1954年(昭和29)・内閣総辞職
- 1956年(昭和31) (日本の国連加盟)
- 1963年(昭和38)・政界引退
- 1964年(昭和39) (東京オリンピック開催)
- 1965年(昭和40)・大磯町名誉町民となる
- 1967年(昭和42)・大磯の自邸にて死去
 - ・国葬(日本武道館)

■吉田内閣時に成立した主な法律・条約

第一次吉田内閣

- 1946年(昭和21)
 - ・労働関係調整法
 - ・第二次農地改革法
(自作農創設特別設置法、農地調整法改正法)
- 1947年(昭和22)
 - ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・労働基準法
 - ・地方自治法

第三次吉田内閣

- 1949年(昭和24)
 - ・労働組合法
- 1950年(昭和25)
 - ・公職選挙法
 - ・生活保護法
- 1951年(昭和26)
 - ・サンフランシスコ講和条約
 - ・日米安全保障条約

第五次吉田内閣

- 1954年(昭和29)
 - ・厚生年金保険法
 - ・警察法
 - ・自衛隊法
 - ・防衛庁設置法

吉田茂のエピソード

吉田がマッカーサーに450万トンの緊急食糧支援を要求したことについて

マッカーサー:「日本に70万トンの食糧しか渡してないけど、450万トンも必要なかったじゃないか。どんな統計をとったんだ!」

吉田:「日本の統計が正確なら、あんな戦争なんてしません。したとしても勝ってはいけません」

吉田がマッカーサーに「GHQとはどういった言葉の略なのか」と質問した時、マッカーサーからの説明のあと....

吉田:「なんだ、Go Home Quickly (とつとと帰りやがれ)の略かと思った」

アレキサンドラ英王女が来日し、吉田のもとを訪れた際、王女は富士山を見ることを楽しみにしていましたが、あいにく雲がかかっていた時....

アレキサンドラ王女:「富士山にはいつも雲が多くて、全容が見えないですね」

吉田:「富士山は、自分より美しい人には顔を隠すのですよ」

ある記者から健康の秘訣を尋ねられると....

吉田:「いいものを食べていますから」

記者:「いいものとは?」

吉田:「人を食べております」



③
旧友ダグラス・マッカーサーを訪問
1954年(昭和29)

旧吉田茂邸 日本庭園

所在地： 神奈川県中郡大磯町西小磯字切通413-21ほか
敷地面積： 約 9,000坪

吉田茂邸は、西小磯の西外れの「神奈川県立大磯城山公園」(じょうやまこうえん)にあります。城山公園は、国道1号線を隔て、南側に「旧吉田茂邸地区」、北側に「旧三井別邸地区」を有し、四季折々の散策が楽しめる公園です。

もとは1884年(明治17)に吉田茂の養父・吉田健三が土地を購入し、別荘を建てたのが始まりで、1945年(昭和20)頃から本邸として使用していました。

敷地面積は約9,000坪で、その中心に本邸があります。庭園設計は、世界的作庭家の中

島健氏により1961年(昭和36)頃に完成しました。(本邸周辺部分の庭は日本庭園研究家の久恒秀治氏による)

心字池(しんじいけ)を本邸の正面(西側)に配置した池泉回遊式(ちせんかいゆうしき)の庭園で、数寄屋建築の本邸との調和や花を愛した吉田茂の嗜好をふまえ、色彩豊かな庭に造りあげたと考えられます。このほか庭園には、サンフランシスコ講和条約を記念して建立した「内門(兜門)」をはじめ、「七賢堂」、「吉田茂銅像」、「バラ園」などが点在しています。



1 バラ園

現在の駐車場にバラ園があり、1,000種ものバラが栽培されていました。中には、当時の美智子皇太子妃(上皇后)に捧げられた「プリンセスミチコ」もあります。



2 中門(兜門)

講和条約門ともいわれ、サンフランシスコ講和条約の締結を記念して1954年(昭和29)に造られました。京都の裏千家今日庵の兜門を写したもので、軒先の形状が兜に似ていることから「兜門」とも呼ばれています。2019年(平成31)に七賢堂、サンプルームと共に国登録有形文化財に登録されています。



3 日本庭園(心字池と石塔)

庭園は1961年(昭和36)頃に完成しました。庭園設計は、世界的作庭家・中島健氏(本邸周辺部分)は日本庭園研究家・久恒秀治氏によるものです。心字池の中央には、吉田茂邸に向かう亀の姿イメージした亀島があり、背中に石造十三重塔を背負っています。



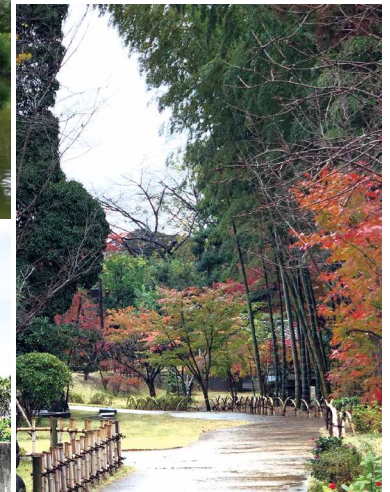
4 七賢堂(しちけんどう)

伊藤博文が滄浪閣に「四賢堂」を建立したのが始まりで、伊藤没後に伊藤が合祀された「五賢堂」を吉田が自宅の庭に移築しました。西園寺公望を合祀し、吉田没後に吉田も合祀され「七賢堂」となります。扁額「七賢堂」の文字は、佐藤栄作元首相が揮毫しました。



5 吉田茂銅像

1983年(昭和58)に「吉田茂、澤田美喜両先生顕彰建立委員会」により建立され、その視線は太平洋の向こうのサンフランシスコと首都ワシントンに向いているといわれています。



6 竹林の古道

竹林の間を通っている小径はかつての鎌倉古道の名残です。この道沿いには、吉田茂の愛犬たちの墓石や養父・健三が醸造業を始めたとき、醤油を作るために使用していた大豆を煮た大釜が残されています。

旧吉田茂邸 復元された母屋の内観

吉田茂は、本邸で賓客をもてなす迎賓館にしたいと思い、本邸の増改築に着手します。

応接間棟の増築は、建築家・木村得三郎氏の設計で1947年(昭和22)頃に建てられました。そして1961年(昭和36)以降、応接間棟以外の大部分と新館を近代数寄屋建築で有名な吉田五十八氏の設計によって全4期にわたる増改築が行われ完成しました。

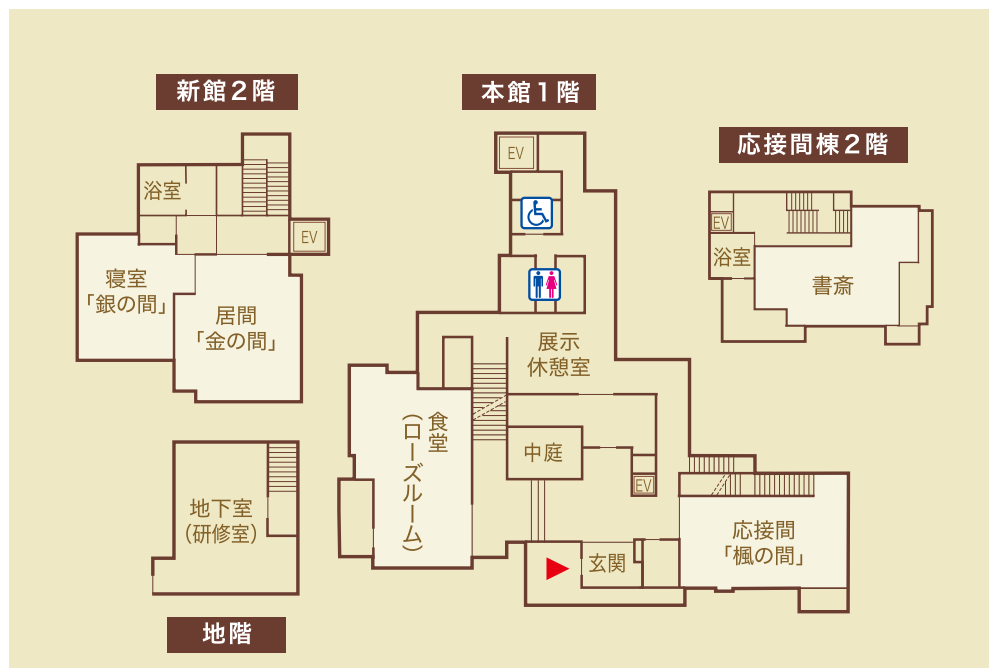
しかし、「吉田御殿」と呼ばれたこの本邸は、2009年(平成21)3月にサンルームを除く母屋のほとんどが焼失してしまいました。

奇しくも神奈川県と大磯町が邸宅の活用を検討していた最中のことでしたが、その後、県と町が旧吉田茂邸再建事業に係る基本協定を締結し、再建工事が進められました。

2016年(平成28)に再建工事が完了し、一部を除いてほぼ焼失前の状態に邸宅を復元することができました。

再建工事にあたっては、本館の「食堂」「玄関」「玄関ホール」と応接間棟(楓の間・書斎)のほか、新館2階の「金の間」「銀の間」などを復元しました。外壁には、玄関まわりのリシン掻落し仕上げや、杉板に和釘打ちを採用しています。また、室内においては、浴室の舟形の桧風呂、応接間の暖炉、食堂のシャンデリアなども復元し、ディテールや仕上げについても、可能な限り復元に努めました。

また、復元部分に加え、展示・休憩室、研修室(地下室)などを新たに設置しました。



所在地: 神奈川県中郡大磯町西小磯418
母屋: 木造一部鉄筋コンクリート造・地上2階・地下1階
延べ床面積: 約 225坪 (建築面積: 約 182坪) ※再建後の面積



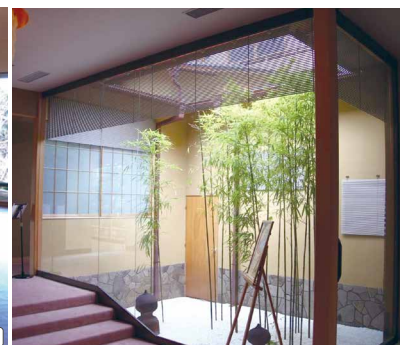
■ 居間「金の間」(新館2階)
賓客をもてなす応接間として使われ、箱根連山や富士山、相模湾が一望でき、吉田はこの部屋から毎日のように富士山を眺めていたそうです。天井板は、板と板の合目に金箔が貼られ、光が当たると金色に輝きます。



■ 寝室「銀の間」(新館2階)
天井一面に銀(錫箔)の装飾を施した部屋で、寝室兼書斎として使用していました。この部屋のベッドで吉田茂は生涯を終えました。



■ 食堂(ローズルーム)(本館1階)
吉田が食事をしてきた部屋で、別名ローズルームと呼ばれていて、アール・デコ調の意匠を取り入れたデザインとなっています。



■ 中庭(本館1階)
大型のガラスをはめ込んだ中庭には、採光の機能があり、光庭(こうてい)と呼ばれています。



■ 応接間「楓の間」(応接間棟1階)
応接間棟部分の1階にあり、40畳の洋間で応接間として使用され、船底天井を取り入れ、大理石の暖炉も備え付けられています。



舟形の桧浴槽



■ 書斎・寝室(応接間棟2階)
新館2階ができるまで書斎兼寝室として執務に使用された和室で、掘り炬燵があり、許可なく入室することはできませんでした。

神奈川県立 大磯城山公園(旧三井別邸地区)

大磯城山公園は、大磯のゆるやかな丘陵地帯にある旧三井財閥別荘跡地と旧吉田茂邸跡地を整備した神奈川県立都市公園です。

旧三井別邸地区は、シイやカシ、ケヤキなどの木々が葉を広げる豊かな自然が広がり、高台にあがれば遠く相模湾から伊豆半島、箱根連山から富士山などが一望でき、のんびりと散策が楽しめます。

園内には、国宝「如庵」(じょあん)を模して建てられた茶室「城山庵」(じょうざんあん)があり、日常の喧騒から離れ、静かに茶の湯を愉しんでみてはいかがでしょうか。このほかには大磯町郷土資料館や北蔵ギャラリーなどの施設もあり、四季折々、紅葉のライトアップやコンサートなど様々なイベントも開催されています。



大磯町郷土資料館 ②



OISO
JOYAMA
PARK



①



神奈川県立大磯城山公園・管理事務所
大磯町西小磯551-1 ☎ 0463-61-0355

開場時間 9:00～17:00
入園料 無料
休園日 年末年始(12月29日～1月3日)
駐車場 第1駐車場(36台)、第2駐車場(19台)
旧吉田茂邸地区駐車場(26台)
*駐車料金: 平日(無料)、土日祝(有料)



大磯町郷土資料館 および 旧吉田茂邸
大磯町西小磯446-1 ☎ 0463-61-4700

開館時間 (資料館) 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
(吉田邸) 9:00～16:30 (入館は16:00まで)
入館料 (資料館) 無料 (吉田邸) 有料
休館日 毎月1日、月曜日(祝日の場合は開館、翌日繰越)
年末年始(12月29日～1月3日)

■参考文献

- ・大磯町教育委員会:『大磯のすまい』1992年
- ・新潮社:『回想十年』全4(著:吉田茂) 1957-1958年
- ・光文社:『父 吉田茂』(著:麻生和子)1993年
- ・「歴史の町 大磯」(編・著:前山茂)2015年

【参考文献】

旧吉田茂邸落成記念企画展
吉田茂 - その生涯と大磯 -
(編集)大磯町郷土資料館 (A4・40頁)
(発行)2017年 3月26日(第1刷)
2017年11月15日(第2刷)

*大磯町郷土資料館にて販売



■写真提供 (順不同・敬称略)

- ① (公社)大磯町観光協会
- ② 大磯町郷土資料館
- ③ Wikimedia Commons

■取材・編集協力 (順不同・敬称略)

- ・大磯町(都市計画課)
- ・大磯町郷土資料館
- ・(公社)大磯町観光協会
- ・(NPO)大磯ガイド協会

■アクセス

JR大磯駅より神奈中バス「城山公園前」下車徒歩3分

バス系統: 磯07 大磯プリンスホテル行 磯14 二宮駅北口行
磯13 西公園前行 平47 二宮駅南口行

※季節限定運行や催事等で、運行が変更になる場合があります。



■編集後記

吉田茂の言葉で印象深い言葉は、防衛大学校第一期生に語られた次の言葉です。

君たちは自衛隊在職中 決して国民から感謝されたり、歓迎されたりすることなく自衛隊を終わるかも知れない。非難とか誹謗ばかりの一生かもしれない。ご苦労なことだと思う。しかし、自衛隊が国民から歓迎されちゃホヤされる事態とは、外国から攻撃されて国家存亡のときとか、災害派遣のときとか、国民が困窮し国家が混乱に直面しているときだけなのだ。言葉を換えれば、君たちが日陰者であるときのほうが、国民や日本は幸せなのだ。どうか、耐えてもらいたい。自衛隊の将来は君たちの双肩にかかっている。しっかり頼むよ。...

吉田政権が日本の独立と経済復興を最優先に取り組んだ様々な政策の中身について吉田自身は必ずしも満足してはいませんでした。

この言葉を、吉田自身に向けて語った言葉(君たちを「吉田」、自衛隊を「政府」として置き換えると当時の吉田の気概と苦悩が見え、そして吉田が成し得なかった課題は、次世代へ託すという強い思いが感じられます。

大磯建物語⑥「旧吉田茂邸」

2021年3月 初版発行 (発行部数:10,000部)

編集・発行 大磯まちづくり会議
〒259-0102 神奈川県中郡大磯町生沢969-3
(株)アスデザインアソシエイツ内
☎ 0463(73)2002
✉ oiso.machidukuri@gmail.com

大磯建物語⑥
旧吉田茂邸



②

吉田茂の愛犬には「サン」「フラン」
「シスコ」という名前の犬もいました。